

議事録

1 概要

議題・会議名	令和5年度 第3回学校運営協議会
開催日時	令和5年11月16日(木) 午前9時15分から11時15分まで
場所	静岡県立清水特別支援学校 会議室
出席者	外部委員5名 本校教職員10名 計15名
目的	学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深めるとともに、その権限と責任の下、保護者及び地域住民等の学校の運営への参画、学校運営の改善及び児童生徒の健全育成に取り組むものとする。

2 議事

会議の内容	<p>開会</p> <ul style="list-style-type: none">外部委員5名、本校教職員10名、計15名で開会した。 <p>校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none">校長より、挨拶が行われた。 <p>趣旨説明</p> <ul style="list-style-type: none">副校長より協議全体の流れについて、また、グループワークの趣旨説明が行われた。 <p>地域との関わりの報告</p> <ul style="list-style-type: none">地域連携課長より、本校と地域とのかかわりについて報告が行われた。 <p>グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none">以下をテーマに3班に分かれ、KJ法でグループワークを展開した。記録は以下のとおりである。 <p>＜グループワークテーマ＞</p> <p>「かがやき発信（貢献）する清水特支を作ろう」 ～清特の強みを生かして「知ってもらおう」「地域から学ぶ」取組とは～</p> <p>【1班】</p> <p>A委員</p> <ul style="list-style-type: none">今日の設定はそれでいいと思うが、私たちは外部からちょっとしか見ていないので、ここで強みと言われてもなかなか分からない。前提として、職員の皆さんが自分たちの学校の強みをどういうところに感じているのか、親御さんがどういうことを思っているのかとか、そのベースの資料があって話し合うべきである。分析をして、学校の強みや弱み、ここをやっていこうと先生方が話すことが学校経営目標を作る時の基本であるが…今日の設定はこれだから進めましょう。今後は、各学部の主事さんから先に強みを発表してもらってから進めるのも良い。
-------	---

<グループワークで出た清特の強み（一部）>

- ・バス停が近く市街地まで1本で行けるため、活動の幅が広がる。
- ・隣に大きい秋葉山公園があるため、活動の幅が広がる。
- ・防災の拠点になりうる場所に立地している。
- ・豊かな環境（海、山、街）があり、広々とした明るい土地柄がある。
- ・公園や店など、利用できる施設が豊富にある。
- ・駅に近いこともあり、いろいろな人が集まる。
- ・住宅地の中にあり、人の顔が見える。
- ・地域の人とのかかわりがすでに多くある。
- ・次郎長通りなど、たどっていけば分校時代からのつながり、人脈がある。
- ・区内の県立学校（高校）がコンパクトで連携がとりやすい。
- ・地域ごとにおもしろい祭りが残っている。
- ・他校に比べれば、施設的には余裕がある。
- ・校内に活動スペース（ロータリー、芝生）が多い。
- ・活動しやすい規模である。
- ・元気な子、挨拶のできる活動的な子が多い。
- ・職員室が一つで教員同士が情報交換しやすい。
- ・小中高の児童生徒が、一つの学校の中で学ぶ、交流することができる。
- ・専門性豊かで教育愛に満ちた先生方が大勢いる。
- ・先生方のフットワークが軽く、活動的である。
- ・校長先生が何でもやらせてくれる。

中学部主事

- ・昨年度9月の水害時に、隣の公園がどんな場所で何ができるかを子どもたちと調べた。水が溜まっていること、ベンチがかまどになること等、学校の隣の公園がただの公園ではないということが分かってとても良かった。

A委員

- ・そういう目で見ると、少し公園を見てきたが草がかなり生えている。どこが管理しているかによるが、やらせてもらえるなら草を取りに行くなどの活動ができる。見ただけでも分かるような特別な施設があり、そうした活動の中で防災にかかわる内容にも触れることもできる。

教務課長

- ・高等部も防災学習で、秋葉山公園のここにこういう倉庫があるなどの確認まではやったことがあるが、その先まではやっていない。

A委員

- ・秋葉山公園を使つての市の訓練はあるのか。

B委員

- ・地域防災訓練はやると思う。12月にもある。

A 委員

- ・訓練は土日になることが多いが、代休を取る形で、土日だが登校日にして参加するようにしたことがある。学ぶ観点がたくさんある。学校の制度はこうだからとこだわっていると、なかなか地域に踏み出すことは難しい。例えば授業日として秋葉山でやる地域防災訓練に参加するなどやってもいいと思う。

中学部主事

- ・総合防災の日は地域の訓練に参加したかを確認することはしている。

A 委員

- ・少し前の話になるが、子供たちの居住地と先生の居住地を重ね合わせて地域防災の日は出勤日にしてそこに行くようにしていた。先生は転勤になるかもしれないが、居住地はそれ程変わらないので、何かの時には、どこの学校に勤めていても関係なく、子どもの事を分かってくれる人がここにいるというのは、子供たちにとっても親御さんにとっても力強いことである。今それをやるのはなかなか難しいが…。

B 委員

- ・今年の 12 月に総合防災訓練がある。自分の子供たちが中学や高校の時は、参加したら何か紙に書いてもらって（参加印をもらって）いた。全中学校なのかは分からないが、公立中学校はそれを学校行事として全校参加として月曜日は代休にする形でやるようである。実際にこれだけ高齢化が進んでいる今、被災した時には、中学生や高校生は活動の主役となって動いてもらう必要がある。いろいろな制約はあるようだが、地域の中の一員として活躍できるとよい。

教務課長

- ・中高生は戦力として役割を担うということ。
- ・すでに地域とのかかわりがあること、他の学校に比べて人数が 267 人でフットワーク軽く動きやすいこと、住宅街の中に学校があり地域の方と常にお顔を合わせるなどできるなどの強みがある。

A 委員

- ・その通りですね。特別支援学校が住宅地の中にあることは中々なく貴重である。学校によっては、学校の周囲が病院や広場しかなく、町内会がないところもある。商店街が当たり前みたいだが、地域の方の顔が見えるのは素晴らしいことである。他校に比べると、スペースに余裕がある。ある施設などは地域連携室といって地域の方に使っていただく部屋を用意してある。そういう発想が大事かもしれない。

教頭

- ・やはり清水は余裕があり、いろいろな活動に使える。先日、高等部が西門横で農作物の販売会をやった。地域の方が列になって買いに来てくれた。そうした活動スペースをとることが出来る。

教務課長

- ・学校近くに小中学校や高校もあり、静岡市圏域に特別支援学校も8校ある。学校が近くにあるということもいろいろな連携の可能性があって強みだと思う。

A委員

- ・逆に清水区はコンパクトで県立高校は少ない。特別支援学校も1つである。そういった意味では、地域の特別支援学校として集約しやすい。これからのリーダーとなっていく人たちとどんどんかかわっていくと良い。静岡の葵区の方だと、学校数が多過ぎて地区の校長先生に集まっていたとしてもすごい人数になってしまう。こういったことをやっていくか焦点化しにくい部分もある。清水はすぐに集まれる状況にあるのは強みである。

B委員

- ・コンパクトという点では、この学校自体が小学校から高校までの1つの学校というところはメリットがある。中学部がやったことを小学部や高等部がその場で連携できること、下の子どもたちがお兄さんお姉さん達をみて学ぶことが学校の中で出来る。

教務課長

- ・学校によって差はあるが、清水特支は職員室が1つなので、学部を越えて常に情報交換ができる。何かあっても目で合図が出来たり、席まで行って相談したりもしやすい。スピーディに動けることは強みである。

A委員

- ・子どもたちで言うと、知肢併置の学校ではないので、基本的には身体的には元気なので、何かやろうとしたときには動きやすい。やはり、肢体学校では、どんな活動するにしてもどうするかという話になる。子どもたちもフットワーク軽く動ける学校である。そうしたことで言うと、専門性豊かで教育愛に満ちた先生方が大勢いることも強みである。
- ・分校の時代からのつながりもあるが、今場所的には少し遠くなったが、たどっていけば、次郎長通りとかいろんところで清水の事を気にかけてくださる方はまだまだいらっしゃるのではないかな。
- ・専門性豊かということと言うと、フットワークが軽くて活動的で、校長先生が何でもやらしてくれることは強みである。

教頭

- ・子どものことで言うと、元気で挨拶ができることが多い。海もあり、山もあり、街もあり、とにかく環境が良い。

中学部主事

- ・評議委員の皆様とも顔が見える関係で、相談しやすいことがありがたい。

A委員

- ・この地区だけではないが、静岡と比べると清水では地区ごとに面白い祭りが残っている。昔ながらのお祭りが残っている。静岡とは違った雰囲気があって面白いと思う。七夕から始まり、港まつり、花火…お祭りも多い。清水はやはり港町としてパワーがある。

B委員

- ・毎週末いろんなイベントがあり、清水区キャラクターのシズラも神社を掛け持ちで動いている。コロナも明けて、今まで以上にイベントも再開してきている。

校長

- ・商店街で50mを走るイベントもありました。

A委員

- ・高等部が神輿担ぎ隊は…。町内会で神輿の担ぎ手がなかったら助っ人にいくのもいいかもしれない。

校長

- ・飯田太鼓保存会は年齢が上がり、叩き手がいなくなってきたようである。

A委員

- ・子どもの存在そのものが、地域の宝である。明るい子供たちがたくさんいる。その子たちが商店街などに出かけて行って活動してくれるとありがたい。
- ・アーケード街の空き店舗で作業製品を販売するのも良い。販路を求めている事業所はあるので、地区の事業所の特産品などを代わりに販売する、アンテナショップを清水銀座や次郎長通りなどでやる、また、中学部で開発したお弁当をそこで売るなど、毎月第何曜日というようにやると面白いかもしれない。

教頭

- ・校内で呼び込むだけではなく、自分たちから校外に出て行って販売するという姿勢も必要である。

A委員

- ・そうなれば、そこに行くにはどういう交通手段で行けば良いか、周囲には何があるかなど、漠然と地域を学ぶのではなく、自分たちの拠点をそこに作るなどして学んでいくとよい。日曜日にお店が開けば、卒業生がそこに集うこともできる。卒業後の生活を学校が支えるのは絶対に無理である。何か生涯学習と繋がる事が出来ればよい。そういう拠点があるとよいのではないか。地域の事業所もお手伝いできる。

B委員

- ・アイスタで自慢弁当を販売したと聞いたが、どういう経緯で実現したのか。

中学部主事

- ・お弁当の会社に依頼をしたときに、私たちは作ってもらう、会社は清水特支が考えた弁当というPRさせてもらいながら、静岡ダービーで元々弁当販売していた会社だったので実現した。
→掲示物があったので、これまでの経緯の詳細を皆さんに説明した。

A委員

- ・これだけ潤沢で専門性のある人材があるところは、個々の事業所ではない。事業所で感染症の勉強をしたい時に、養護教諭さんが講師で来ていただくと大変ありがたい。防災計画なども、学校は綿密に作成してある。災害などがあると、清水特支のHPを見て、清水特支はどのような対応をしているかを参考にしている。断水でこのレベルで学校が休みであれば、事業所も止めておこう・・・のようになる。一つ雛形的に、バックには教育委員会があり県があるという中で、いろんな情報を持っているので、そうしたことを上手に発信してもらえると大変ありがたい。学校が持っているものはすごい。

教務課長

- ・学校は毎日あるが、学校にはそうした役割もあるということですね。

教頭

- ・結局のところ、お金がかかってくるので、学校としてどういう風に取り掛かっていけばいいのか。まだ、そうした知識がないので何から始めていけばいいのかと思う。様々なイベントへの参加のチャンスもあるが、お金がかかってくると参加が難しくなることもある。学校で作業販売会をやるのはお金がかからないが…。

A委員

- ・手始め的には、次郎長通り商店街のイベントなどに出展し、それらのつながりから広げていくことができる。1つは本物だから、次は本気度があるかどうか。本気でやるつもりがあるのかということが、相手を動かすことになる。そうしたことを学校で意思統一ができるかどうか。

教頭

- ・門を一つ開けて、野菜を売るだけでこんなに人が来てくれる学校、その環境はすごいと感じた。

A委員

- ・そこからやっていくでも良いのではないかな。その時に事業所にも声を掛けていただければ…。もっと他のお客さんも来るし、その中には卒業生もいる。

教頭

- ・様々な場所とコラボして販売が出来れば、買う人たちもいろいろな物を手に取れる。

B 委員

- ・やってみて、それが月に一回とか定期的にできたりすると良い。ちなみに次の販売会はいつか。

教務課長

- ・12月2日です。

B 委員

- ・チラシがあれば配ります。

A 委員

- ・事業所では何かしようと思っても、人、物、金がない状態がある。学校は何かしようと思えば、環境も整っていて何でもすぐにできる。また、学校の中の人材も大切である。先生方それぞれの得意なことを把握できているか。

教頭

- ・今後、先生方の得意を生かして少人数の学習会を予定している。

A 委員

- ・是非やって欲しい。同じ職員室にいて、一方で困っている、一方で得意な人がいるのはもったいない。100人いればいろんなことに興味を持っている人がいる。それが遊びでもいい。ロードレースが好き、ドローンが好き、結構マニアックなこともあるかもしれない。外部の講師を呼ぶこともあるが、校内で先生方自身が講師もできる。

B 委員

- ・先生方の懇親する機会はあるか。

教頭

- ・コロナのことがあって出来てなかった。ようやく今年は懇親会を学部ごとやる予定である。放課後に色々な話をする中で、人となりを知っていくことがきていたが、今はそれが少なくなっている。これだけ年齢幅もある中、年齢が上の人が何かを教えると言う事だけではなく、得意な人が興味のある人たちを集めて何かをやる事が出来ればと思う。

【2班】

事務長

- ・防災の点では、福祉避難所であり、地域とかかわる。

C 委員

- ・以前体育館で行っていた地域の自治会主催の宿泊防災訓練に参加し、委員自身も参加して初めて清水特支のことを知った。

D委員

- ・学校に来てもらうことが大事。活動に足りる設備も充実しているので、地域活動で使ってもらうことが良い。地域が参加しやすいのは土日等の休みの日、学校は平日に活動する。一緒に活動することは難しいかもしれないが、間接的にかかわることができる。例えば、畑の作業を平日は子どもたちが行き、それを見守っている地域。土日や長期休業中は地域の方に水やりなどを助けてもらう。作物を介して交流する方法もある。地域の方を「呼び込むネタ」作りを！

地域連携課長

- ・フェンス越しに見えるミカンの収穫時期を気にしてくれる地域の方がいる。

D委員

- ・声をかけてくれた人は、学校にすでに興味を抱いている人なので、「一緒に採りませんか。」と上手く引き込んだり、その人を中心に口コミで仲間を増やしたりする。活動したことは、ホームページ等で発信すると良い。

C委員

- ・小中学校のグラウンドは、簡単な手続きで使用できるが、特支の施設はハードルが高いと感じている。地域へ開放すると良いのではないか。

事務長

- ・市町は市の管理センターがあるが、県立の本校の施設貸し出し窓口は、施設開放委員会を経て、学校事務が手続等を行う。

D委員

- ・地域の方のサッカーや野球の場所は足りているのか。

地域連携課長

- ・ボールが使える公園が限られているので、ボールが使える公園は混んでいる。

C委員

- ・連合自治会で行う、飯田まつりでは、社協はテントを3つ張って福祉コーナーを行っているが、支援学校の生徒の製品販売などでも使える。日曜日の開催なので、生徒の参加が難しいか。

高等部主事

- ・今年度は日軽金の祭り（土曜日）で、製品展示と学校紹介をさせてもらった。

D委員

- ・日軽金の祭りは部署ごとにテントを出し、盛り上がる。土日に開催というところが、学校が参加する際のネックである。特支のOBもいるので、OBが現役生徒の製品を売ればよいのではないか。

C委員

- ・社協が代わりに売ることもできる。

高等部主事

- ・OBOGは、日軽金の祭りのときに、学校のことを気にしていた。

D委員

- ・社会人になって働き始めは大変だが、余裕ができてくると、現役生徒の助けになれる。

C委員

- ・祭りのような要素があると、人は集まりやすい。

D委員

- ・OBOGも巻き込んで、大きい力、原動力にできるのではないか。

高等部主事

- ・OBの会として「あきはの会」があるが、成人の集いのために動いているくらいである。

D委員

- ・卒業後5年目や10年目等の節目に集まることで、働いている卒業生のことも、就職先の情報も入り、交流の場にもなる。学校だけでやろうとすると限界がある。OBOGの働き先も巻き込むこともできる。

C委員

- ・小中学校の運動会では地域の人用のテントがあるが、以前の清水特支の運動会ではフェンスの向こうから覗いている地域の人がいる感じになっていた。

D委員

- ・特別支援学校のこと、障害のある人のことを、知らない人の方が多いのは確かなので、すぐ近い地域には理解してもらおう等エリアを決めるとよい。

事務長

- ・教育行政のことで言うと、事務はH29からは県立の高校、特支、役所等に人事異動がある。以前高校に勤務していた時に感じたことは、高校生は特別支援学校の中のことほとんど知らない。高校の中に高等部が分校の形で入ることがあり、そういう学校では理解されることもあると思うが、清水特支は違う。中高生等の大きい年代も交流をして触れ合う、知り合うことが大事。社会に出て一緒に働くこともあるので、知っていることが大事。

高等部主事

- ・未来創造トークでは、4日間の最終日に特支の生徒も参加した。本校の取り組みの紹介をしたが、高校生からは「清水支援学校があることは知っていたが、中のことは知らなかった。」という声が聞かれた。

D委員

・普通高校同士でも中のことは知らないだろうから、学校を知っているかということよりも、障害のある子、人を知ってもらうことが大事。「知って」と働きかけていくことは簡単ではないが、開放することで知ってもらえる。日軽金も障害者が少ない会社であったが、オーリスが立ち上がり、社員の一人として接すること、交流をしたり開放したりすることで、自然なかかわりとなっている。学校（12年間）の前と後のつながりをどう使うか。学校選択を悩む人も多いので、座談会も立ち上がっている。育成会に入っていればよいが、入る人は少なくなっている。福祉をいかに引き込むか、障害者を受け入れている企業を集めて何かできないか、OBOGも含めて。

D委員

・ホームページを充実し発信することも大事。

事務長

・高校は生徒獲得のために、インスタやX等、見てもらえそうなもので発信している。見栄えの良い先生、上手に写真を撮れる先生、いかに良く見せるか、テクニックを駆使して勝負している。

D委員

・ホームページはパソコン版とスマホ版を用意し、何度でも見てもらえるようにするのが良い。

C委員

・清水特支は先生方が子どもに熱い指導をしている。先生たちが生き生きとしている。ボランティアへも気軽に接してくれる先生が多く、敷居が低いのが良い。

D委員

・挨拶が他と比べてとても良い。福祉の方同士のかかわりを、学校が福祉同士をつなぐ、学校が企業同士をつなぐ、地域の核となることができるとよい。14年の若い学校なので、OBOGも20代で巻き込みやすいし、動きもとれる。OBOGを引き込むことは、彼らの余暇が充実することになり、WinWin。

C委員

・ボラさんはボラの時間のことしか知らないなので、普段の様子を見られる見学会などができるとよい。

D委員

・ボラさんとOBOGをつなげて、OBOGもボラをやることができると良い。自立をするのに、仕事だけでは難しい時代。地域で生きていくことが大事。

高等部主事

・学校がOBOGやボランティア、企業、福祉などをつなげるきっかけを作ることができればよい。若い学校なので、トライしやすい。行政も動きにくいですが、地域の声があれば後押しになる。

D委員

- ・発信は作品展示などでできている。銀行での展示が、銀行が取引している企業などにもつながっていくとよい。ライオンズクラブやロータリークラブとのつながりは？

事務長

- ・あまりない。

高等部主事

- ・ろうきんさんが毎年、書籍の寄贈をしてくれるが、その出資にロータリーが入っている。鈴木教育財団も遊具などの寄贈をしてくれている。

地域連携課長

- ・銀行の展示から、応接室に飾る絵に…というような話も出ている。

D委員

- ・作業製品で額も作り、それに入れて、1つ持って行ってみることでつながるかもしれない。

C委員

- ・交流館にもそのような作品を飾るスペースを作ってもらえませんか。

D委員

- ・もっと活躍してほしいし知ってほしい。協力してくれる人がいるので、もっと使っていくことができれば。

【3班】

- ・清特の強みについて「環境面」「ネットワーク」「学校」「児童生徒」の4点で確認ができた。

<環境面>

- ・住宅街の中にあり、住民と距離が近い。
- ・秋葉山公園があり、活動をとおして心身の開放になる。
- ・幅広い地域から通学しているため、学校のPRができる機会が多い。
- ・交通のアクセスが良い。
- ・近隣に飲食店やお店が多い。

<ネットワーク>

- ・清水分校時代からの伝統を受け、地域と関わろうという意識が強い。
- ・清水区に特別支援学校が一つなので、企業や福祉サービス事業所、関係機関との連携が密にできる。

	<p><学校></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校であるが、児童生徒数が他校に比べて少ないので、運営しやすい。 ・建物がきれいで、他校と比較して広い。 <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつができる児童生徒が多い。 ・生徒が素直である。 ・生徒同士が、お互いの障害を理解し、相手を思いやる態度が自然と身に付いている。 <p>・地域で学ぶ知ってもらえる具体的な方策について、「学校を中心としたネットワークづくり」をテーマに「発信」「受信」「活動参加」の視点で確認ができた。</p> <p><発信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校は、生きるための支援や学習をしていることを地域に発信していく。そうすることで、ひきこもりや病弱の子どもたちにも手を差し伸べることができるのではないか。 ・地域への発信は現在行っている取り組みを今後も継続していく。特に民生委員や自治会長など、地域を統括している方々に理解してもらおうと、地域とかがわりやすくなる。 <p><受信></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域からの発信を積極的に受信していくと良い。例えば、「福祉の祭り」などの行事の情報を収集する。障害のある方が集まる行事ではなく、一般市民が集まる行事の情報を得る。 ・児童生徒は様々な地域に居住している。児童生徒や保護者から地域のイベントの情報を得る仕組みを作ると良い。 <p><活動参加></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加する行事を選択する場合は、教職員が主導となるのではなく、児童生徒の発想や考えを形にしていくと良い。 ・活動に参加する目的は、子どもたちを世の中へ出していくことであるが、児童生徒が障害のあることを地域の方が知ることになるので、配慮が必要となる。 ・以前、生徒が清水銀座商店街の清掃をしていた。地域の方は生徒の頑張りをよく見ており、住民同士の話題になっていたようである。やはり地域での活動は有意義である。
--	---

【次回の予定】

予定日時	令和6年2月8日（木）午後1時15分から3時15分まで
場所	静岡県立清水特別支援学校 会議室
予定テーマ	令和5年度の評価